

# U ウメモト インフォメーション U

2020年 12月 4日 担当 小松

## OPECプラス、減産小幅縮小で合意 来年1月から=関係筋

[ロンドン／ドバイ／モスクワ 3日 ロイター] - 複数の関係筋によると、石油輸出国機構（OPEC）にロシアなど非加盟産油国を加えた「OPECプラス」は3日、来年1月から減産規模を日量50万バレル縮小し、同720万バレルとすることで合意した。

ただ、来年の全般的かつ長期的な方針については、なお意見が分かれているという。

OPECプラスは当初、現在の減産規模を最低3月まで延長するとみられていた。しかし、新型コロナウィルスワクチンへの期待から原油相場が値上がりする中、一部の生産国から減産延長に疑問の声が上がっていった。

関係筋によると、ロシア、イラク、ナイジェリア、アラブ首長国連邦（UAE）が来年の減産規模縮小に一定の関心を示した。OPECプラスは1月以降、毎月会合を開き、生産枠を決定するという。月次の伸びは日量50万バレルを超えない見込み。

# ウメモト インフォメーション

引用：日経／化学工業／燃料油脂／新聞展望／他(

2020年12月3日

担当者: 若崎

原油価格は、<sup>ノン</sup>新新型ウイルスの感染拡大を阻止して通常通り、世界経済と石油需要が急成長するという状況を前提として動き始めている。

各トレーダーはこれまで期近の先物契約を先物上の最高値まで競り上げており、バックワードーション（逆サヤ）となっていく（逆サヤ）ことによって原油価格の構造は石油市場がひつ迫気味であることを示している。しかし現物市場の原油価格はベース市場に追随しておらず、石油のファンダメンタルズは現在の市場が期待だけで上昇している

【二コ一ヨーク】  
P-I-W 請特約】ブレ  
ント原油価格は11月  
25日、48.7を突破  
し、現在は新型コロ  
ナウイルス感染拡大  
の影響力の大きさが  
まだ知られていないが  
った3月以来、最高  
値で取引されてい  
る。ワクチンに関する  
楽観的なニュース  
が価格の急上昇をあ  
おつていて、石油  
市場は先走りしき  
ているのだろうか。  
原油価格は、ワクチ  
ンが新型ウイルスの感  
染拡大を阻止して通常  
に近いレベルでの旅行  
や商業の再開が可能と  
なり、世界経済と石油  
需要が急成長するとい  
う状況を前提として動  
き始めている。  
各トレーダーはこれ  
までの期近の先物契約を  
引き続き大幅な減産  
を実行することに合意  
し、それを厳密に順守  
しなければならない。  
さらに市場は来年の  
石油需要が現在の予想  
で500万桶以上に回  
復すると期待している。  
ただし迅速なワク  
チンの供給があつて初  
めて可能となる。  
ブレント原油価格の  
上昇は現状、世界が基  
本的に新型ウイルスを  
支配下に置いているこ  
とを示唆している。  
2021年1月に荷  
積み分のブレント原油  
先物は先週初め、20  
21年12月に荷積み分  
の先物より30㌦安く取  
引された。新型ウイル  
スの感染拡大のピーク  
当時、12カ月後の積み  
荷に対する現物価格は  
15㌦割安だった。11月  
初めにはまだ3.79㌦  
だったが、その後ワク  
チンの発表によりそれ  
は消え去っている。

## 新型コロナ第2波の影響注視

# 「OPECプラスは大幅減産を視る」

**油価急上昇**

を実行することに合意し、それを厳密に順守しなければならない。さらに市場は来年の石油需要が現在の予想で500万桶以上回復すると期待している。ただし迅速なワクチンの供給があって初めて可能なことである。

ブレント原油価格の上昇は現在、世界が基本的に新型ウイルスを支配下に置いていることを示唆している。

2021年1月に荷積み分のブレント原油先物は先週初め、2021年12月に荷積み分の先物より30㌦安く取引された。新型コロナウスの感染拡大のピーク当時、12ヶ月後の積み荷に対する現物価格は15㌦割安だった。11月はじめにはまだ3㌦79¢だったが、その後ワクチンの発表によるそれが消費去っている。

入された後需要の二ユニー・ノーマル（新しく）の状態がどのような

現在、市場が均衡状態を取り戻すまでもうすぐ手が届く状況など、近いことを示唆しているが、石油在庫の状況も、まだ遠い道のりであることが分かる。

EITG（エナジー・インテリージェンス・グループ）の需給バランスに関する予想では、現在の余剰在庫は品目別で9億桶といつ驚くべき量である。OPECが規制するべき量である。OPECは現地で切り崩している。直近の価格の反発は今後石油需要上昇をあってにしたものだ。これによって膨大な製品在庫が減少するはずだ。

しかしワクチンが導入されると、OPECの製品在庫は過去5年間の平均より1億6000万桶高水準にある。OPECの製品在庫は

Dは9月のピークから500万桶減らして  
いるが、欧洲および米  
国で新たなロックダウ  
ン（都市封鎖）が行な  
われた場合、このペー  
スは鈍るだろ。  
石油需要の高まりは  
主にアジアでみられ、  
とくに中国で顕著だ。  
各トレーダーは、中国  
の精製企業各社が原油  
を必要としていること  
に熱い視線を送り、当  
初の調査報告ではこの  
状態が2021年2月  
の中国の春節よりま  
で続くとしている。だ  
が中国の原油在庫は膨  
大であり、感染拡大か  
在庫も膨張している。  
中国の精製量はこれ  
で伸びていて、増加す  
る傾向にある。  
しかし中国はこれまで  
しかなりの量の原油を  
貯蔵用または製品を輸  
出する目的で買い込んで  
いる。このためアジ  
アにおける精製マシン  
が抑えられ、精製量  
と原油の購入量が減少  
しているが、現在は事  
態が改善しつつある。  
中国の石油に関する  
データは闇のなかだ  
が、政府のデータおよ  
びIEAの予想は、大量  
の在庫がここ数年、積  
み上がっていることを  
示している。とりわけ  
中国は2020年、安  
価な原油を大量に積み  
込んでいる。  
中国の精製量はこれ  
で伸びていて、増加す  
る傾向にある。  
北米、南米、欧州、  
アフリカの一部からな  
る西半球諸国は、新型

# ウメモト インフォメーション

引用：日経／化学工業／燃料油脂／新聞展望／他(

2020年12月3日

担当者：芳崎

# クウェートと 共同石油備蓄

工  
木  
序

資源エネルギー庁は  
1日、クウェートの国  
営石油会社クウェート  
石油公社（KPC）と  
の間で、クウェート産  
原油50万㎘（約314  
万㎘）を日本国内に貯  
蔵する共同石油備蓄事  
業を開始すると発表し  
た。鹿児島市のENE

工ネ庁 OS喜入基地のタンクをKPCに貸出し貯蔵する。今年度中に受け入れを開始予定だ。

資源エネルギー庁は1日、クウェートの国

含むアジア向けの供給拠点として活用。中東からの中東諸国に加え、第三国に通じる緊急時には、タンクで、アジア諸国、日本（東南アジア諸国連合）加盟国の第三国に融通することを通じて、アジア諸国、日本

アシア  
強化へ第一國聯通も  
工ネ安保

石油公社(KPC)との間で、クウェート産原油50万㎘(約314万㎘)を日本国内に貯蔵する共同石油備蓄事業を開始すると発表した。鹿児島市のENEは、平時はKPCが日本をリビンなどASEANの間でも、アジアへ第三王國通も強化へ第三王國通もエネガ保アシア

# U ウメモト インフォメーション U

2020年 12月 3日 担当 小松

▶鹿島道路／モーターグレーダーに接触防止装置を搭載／距離別に3段階の設定可能 [2020年12月3日3面]



モーターグレーダー後方の上にカメラ付き赤外線センサー、下にミリ波レーダーを搭載している

鹿島道路は道路舗装工事の安全確保対策として、舗装機械のモーターグレーダーに作業員などとの接触防止機能を搭載した。作業員が着用する安全反射チョッキを識別し、一定範囲内に人が接近すると減速したり停止したりして接触事故を回避する。赤外線センサーとミリ波レーダーセンサーの2重で接触防止機能を設けている点が特長。対象物との接近距離に応じて3段階に動作を設定でき、ブレーキ作動時の衝撃を緩和する。

ブレーキアシストシステムを搭載したモーターグレーダーは1台を現場に導入済み。年度内に3台まで増やし、その後は段階的に現場に普及させていく。

モーターグレーダーの後進走行時だけ自動ブレーキが作動するようにした。作業員に安全反射チョッキを着用してもらうと、赤外線センサーが反射率から安全反射チョッキとそれ以外の物体を識別し、車体にブレーキがかかる仕組み。別系統のブレーキとしてミリ波レーダーセンサーも設けており、赤外線センサーが不調で作動しない場合も自動ブレーキが作動する。複数のブレーキ機能を搭載することで安全性を高めた。

ブレーキは対象物との距離別に3段階で設定できる。最も遠い距離に対象物を検知した場合は、最大25メートルの範囲で警報装置の作動と同時に、後進走行のギアを4速から2速に落とす。次に遠い距離ではエンジンの回転数をアイドリングに下げ、エンジンブレーキを利かせる。最も近い距離ではフットブレーキが作動し、確実に停止する。段階的にブレーキを利かせることで柔軟なブレーキ動作を確保し、オペレーターにかかる衝撃を和らげる。ブレーキが作動する対象物との距離は任意に設定できる。

道路舗装工事に使う重機は、ホイールローダーなどにブレーキアシストシステムの導入が進んでいる。一方で、モーターグレーダーは最大で時速20キロの速度で50～60メートル後進するにもかかわらず、確実に停止する機能が現場に導入されていなかった。